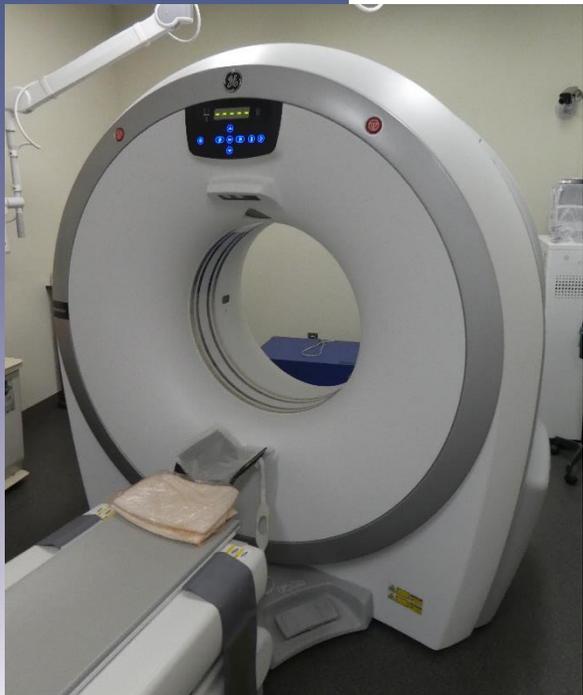




歯科放射線科



研修の特色

歯科放射線科コース

- 歯科放射線科での研修は、歯科診療に頻用される画像検査・診断および医療安全の面から被曝管理について習熟できるように配慮しています。
- センターのため各科から患者さんが集まります。様々な病態の画像診断を研修できます。
- 施設としては、口内法X線撮影装置 5台 (IPスキャナ:5台)、パノラマX線撮影装置 2台、FCR (Fuji computed radiography) 1台、歯科用コーンビームCT装置装置 2台、マルチスライスCT (全身用X線CT診断装置) 1台を要しています。
- 各種検査の習熟について
 - 口内法およびパノラマX線検査は単独で、その他の検査は指導医と共に実施できるようになるのが目標です



- 読影について: 歯科放射線科で撮影された画像を読影し画像診断能力の向上を図ります。
 - 口内法X線画像およびパノラマX線画像の読影ができる。
 - 歯・歯周組織疾患の歯科用コーンビームCT画像の読影ができる。
 - インプラント術前検査、顎口腔領域における腫瘍性病変のCTおよびCBCT画像を読影する。
 - 様々な病変のCTおよびCBCT画像を指導医と共に読影します。
 - PACSに保存されている過去画像を読影し、横(各科の様々な病変)、縦(1つの病変を経時的に)に見て画像診断を研修します。
- 医療で使用する放射線および放射線機器については、社会的にも法律的にも、近年ますます厳格な管理が必要とされてきています。歯科放射線科の研修を通じて個人被曝管理および環境と放射線機器の管理を研修します。

